

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3071100287
法人名	社会福祉法人清和福祉会
事業所名	グループホーム美里園
所在地 (電話番号)	和歌山県海草郡紀美野町安井6-1 (電話) 073-495-3216

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 5人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.5人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋 造り 3 階建ての 2 階 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780円		

(4) 利用者の概要(12月13日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.6 歳	最低 75 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石本病院、河野歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は自然環境に恵まれた山あいの集落にあり、地域の福祉拠点となっている母体法人に併設型のグループホームである。地元の小・中学生の訪問は年間を通した総合学習の一環で行われており地域資源として位置付けられている。また、ボランティアも積極的に受け入れている。ホーム内は広々として明るく管理者、職員はともに質の高いサービスを目指してケアに取り組んでおり、その中で利用者は生き生きと過ごしている。利用者職員の信頼関係が強固であることが窺がえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘のあった介護計画作成については、センター方式の一部を活用し利用者一人ひとりの意向等を把握することに努めており、改善が認められる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はその意義を十分理解した上、職員もそれぞれ意見を出し合い、管理者がそれをまとめ上げ、全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年12月に第1回目が開催され次回は3月に予定されている。1回目は地域に開かれたものにするためにも積極的に情報提供を行った。その時に出席者の中から身近な提案を受け、前向きに検討を進めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	法人として福祉サービス第三者委員による相談窓口を設けている。ホーム便りにも毎回意見を求める「お知らせ」を掲載し、積極的に呼びかけている。また、運営推進会議では出席する家族代表に意見をだしてもらい、運営に反映させるよいチャンスだと捉えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小・中学校の運動会や発表会に招かれて参加したり、学校行事の生徒訪問、またボランティアの受け入れ等、地域に向けて開かれた取り組みが行われている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知が進んでもその人らしさを保ち地域に根ざした暮らしを支える」という事業所独自の理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々理念を確認しあいながら、よりよいケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、孤立することなく地域の小・中学校の訪問を受けたり、学校の行事に参加したりしている。ボランティアも積極的に受け入れており交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はその意義を十分理解した上、全職員で取り組んでいる。また外部評価については指摘を受けた分は改善に向け積極的に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の実情を理解してもらえるよう報告や話し合いを行っている。住民代表として参加の地区長から身近なアドバイスをいただいたりしてサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>法人の事務長がパイプ役となって町担当者と連携がとれており、事業所と行政と両方でサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族への報告は随時電話で行なっている。また家族面会の際には個別に報告をし、各居室に備えてある個人ごとに整理されたアルバムを見てもらったり、きめ細かい対応をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人に福祉サービス第三者委員としての相談窓口を置き意見や苦情を表しやすい体制を整えている。またホーム便りにも毎回意見を求める呼びかけを行って、出てきた意見は運営に活かせるようにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できるだけ異動を抑えているものの、あれば前任者が顔をのぞかせる等、利用者には動揺が出ないよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修、内部研修、消防研修等段階に応じた研修を行い、働きながらのトレーニングも並行してすすめている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム連絡会に参加し相互実習を行っている。同業者との貴重な交流は、日々のサービスを見直すよい機会になっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者や家族に見学を勧めているが、見学できない場合にもホームに馴染むよう職員から積極的に話しかける等、閉じこもらないように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの生活の知恵など、職員が教わることも多く明るく弾む会話の中で支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の体調や様子を観察しながら一人ひとりの思いや意向を把握し、その暮らしぶりをサポートしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回ケース会議を開き職員の意見をまとめ、その上に家族や医師等関係者の意見を反映した介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一度見直しているが、必要なときは医師や理学療法士とも話し合い、状態変化に合わせた計画を随時作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院など柔軟に対応している。またお花見ツアーなど特別な外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師が週1回、また理学療法士も定期的な訪問で適切な医療が受診できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の支援については、必要となった時点で家族と話し合いの機会を持ち、全員で方針を共有しているが、現在該当者がなく終末期の話はできていない。	○	契約時等、早い段階から家族や本人の意向を確認し、繰り返し話し合いを持って関係者全員で方針を共有することが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重して接しており、言葉使いや対応によりプライバシーを損ねないよう取り組んでいる。またホーム便りについても一人ひとり個別に作成するなど、個人情報の保護に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしており、職員もゆとりを持って接している。自由に希望を表出できる利用者も多く本人の意思を最優先に接している。また困難なときは本人本位ということを念頭において支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら献立を立てており、一緒に食事を楽しめるよう会話で引き立てたりして支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後からで、利用者は隔日のペースで職員とゆったり会話しながら入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干す、たたむ等率先しておこなってくれる人や、趣味の手芸や大正琴を楽しんでいる人、視力障害者のためのテープの貸し出しを受ける人等それぞれに張り合いや喜びのある日々を過ごすための支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物先が遠方なので月1回ドライブを兼ねた買い物をおこなっている。テラスでお弁当を食べながらお花見もできる環境にあり、開放感がある。希望にそって散歩に出かけるなどの支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者・家族の了解を得て玄関の鍵は施錠されている。暗証番号で開けるようになっており、システム上、手動にできない状態である。	○	居室は開放的で共用空間も広々しており閉塞感はないが、利用者の自由な暮らしを尊重することからも鍵をかけないケアに取り組まれることが望ましい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体法人において年1～2回、消防署の協力を得て夜間体制も想定した避難訓練を行っており、利用者も参加している。また運営推進会議において地域の協力が得られるよう働きかけをしていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表で摂取した栄養バランスを見ている。また水分量は排尿、排便チェック表にてトータルを見ながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ったところに地元の中学生在が届けてくれたメダカの大きな鉢が置かれ、目を楽しませてくれる。掃除の行き届いた広いフロアーにはソファやテーブルなどが置かれくつろげる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の大きな窓からは緑豊かな自然が眺められ、季節感が感じられる。また入り口のガラスはカーテンをつけてプライバシーが保たれるよう配慮されており、使い慣れたもの、好みのものでそれぞれ飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		